
タイムスリップ

犬丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイムスリップ

【Nコード】

N9307A

【作者名】

犬丸

【あらすじ】

自分がもし今の人生をやり直し出来るのであればどこからやり直しをしますか？やり直したい人が過去に戻っているんな出来事に対してやり直しを行います。しかし歴史が簡単にかわるのでしょうか？

第1話 とある朝の出来事

時は4月1日、新年度の始まりであった。

「……はるな。春菜。早く起きないと会社に遅れるわよ。」

普通の朝の風景である。はるなと呼ばれたのは飯田春菜。今年、いや、今日より新社会人となったのであった。

今日は入社式があるため、早く起きないといけなかった。

「うっん。まだはやいよ。おかあさん……」

と寝言を言いながら寝ていた。

「春菜、あんた今日から仕事でしょう。学生と違うんだから早く起きないと。」

と母はうんざりした様子で言った。

「そ、今日から仕事……え？仕事？そうだ、今日入社式だったんだ！」

やっと今日から社会人になるときがついた春菜は飛び起きた。

「やばい。なんでもっと早く起こさなかったの？」

と春菜は言いが、母は、

「社会人になった以上は自分でおきないと。明日から起こさないわよ」

と忠告をするかのように言った。

「えっ、けちいっ」

と春菜は子供のようにいった。

春菜は現在22歳。今年大学を卒業して社会人となったわけだが、春菜は少し不満があった。

（もし戻れるのなら、戻って人生をやり直してみたい……）

新しく入る会社は春菜にとっては自分の希望していた会社とは違っていた。

やはりいろいろなところで自分の希望する会社には入れなかったの

である。

もちろん試験は受けた。しかし最終審査まで行かず落ちてしまったのであった。

「あゝあ、過去に戻れたらいいな〜」

と思いながら階段を降りた瞬間、足を滑らせてしまった。

「あ。」

その一言を残して下まで落ちてしまった。

階段を落ちる豪快な音にびっくりした母は、

「春菜？なに階段を落ちているの。」

と笑いながらいったが、春菜からの返答がないので心配になって階段のところまで来ると、春菜はぐったりしていた。

「春菜？春菜？？返事して、はるなあ。」

すでに春菜の意識がなかった。母はすぐに救急車を呼び、春菜を病院へと連れて行った。

病院にて・・・

診察を終えた主治医はこう話した。

「春菜さんは命に別状がありません。しかし精神が体の中にはありません。」

もしかして精神のみどこかに行ってしまったのかもしれませんが。お母さん、なにか心当たりはありませんか？」

と聞くと母は、

「そうですね、今日から社会人なんですけど、なにやら自分の希望していた会社とは違うといって悩んでいたみたいですが。」

という主治医は真剣な眼差しで、

「そうですね・・・このままでは春菜さんの体と精神が離れ離れとなり、

最終的には植物人間化してしまいます。私たちも精いっぱい努力

はしますが、

最大で1年以内に帰ってきてもらわないと・・・。」

と主治医は言った。

母は心配して

「これってありうることなんですか？」

ときくと

「まれなケースです。でもきつとすぐにもどってくるでしょう」

と主治医はいったが内心あせっていた。

（本当に1年でもどってくるのだろうか。戻らないと本当に離れ離れになるぞ。）

そのころ春菜の精神は変な空間をさまよっていた。いったいどこにたどり着くのだろうか・・・

タイムリミットまであと1年！

第1話 とある朝の出来事（後書き）

自分の人生も少々（1%程度かな？）混じっています。

初めてのシリアス長編です。（趣味程度に書いているだけなので）
いろんなご意見をいただけるとありがたいと思っております。

なお、時間があるときにしかかけませんので

次の話がのるまで時間がかかることもあります
ご了承ください。

第2話 小学校時代（その1）

第二話

春菜の精神はまだ変な空間をさまつよつていた。
しばらくすると先に光が見えてきた。

これがこの変な空間の出口らしい。

出口を抜けてから数秒後、ふと声が聞こえてきた。

「・・・な。はるな。いつまでねてるの。早く起きないと学校に遅れるよ。」

いつもの母の起こす声が聞こえた。

「あと5分・・・」

と春菜がいうと、母は、

「なに大人びいたこといつているの。今日から4年生になるのだから、

もうちよつとしゃきつとしないと。」

とうんざりしたような声で言った。

「うん。わかってる。今日から4年生・・・え？4年生？」

春菜は驚いた。自分は今日から社会人になるはずである。

しかし周りを見るとなんか懐かし感じがした。

「そうよ。はるな。なにばかなこといつてんの。学校に遅れるわよ。」

と母はいった。

「は、はい。」

と春菜は言ったが、なんか納得いかなかった。

体は小学生4年生、10歳。しかし精神は22歳。

おかしいほど全くあっていない。これが逆なら巷でも見かけるが。

それに何故小学生になったのかわからなかった。

服を着替えていると、とあるところから声が聞こえた。

「・・・そなた。飯田春菜であるな。」

と渋い男性の声が聞こえた。春菜は驚いた様子で

「だれ？」

といい、周りを見渡した。しかし誰もいない。

するとまた声が聞こえた。

「飯田春菜殿。わしはお前の守護神だ。普通の人には私の姿は見えないが。声に出さなくても頭の中で考えればよい。」

と聞こえた。春菜は頭の中で言葉をつむいだ。

「・・・なぜ、私小学生になっているの？」

守護神はいった。

「それは春菜殿が人生をやり直してみたいといっていたじゃないか。それをかなえたただけなのだ。」

とぶっきらぼうに言った。

「人生をやりなおしたいなあ。とおもったけど・・・でも精神と体がばらばらじゃないの。元に戻してよ。」

と春菜はいった。すると守護神は、

「そう簡単には戻れません。やり直すといった以上やり直していただかないといけません。」

というとき春菜は困った様子で言った。

「え？今日会社の入社式なのに、私無職になるわ・・・」

「その点は大丈夫です。１年間は休職という形になっています。元の体に戻ったらすぐに会社にいけるようにはしています。しかし１年以内に戻らないと元の体には戻れません。」

というとき春菜は

「そうなんだ、よかった。しかし１年以内に戻れといっても・・・戻り方知らないし・・・」

といった。当たり前である。突然小学生時代にいつてしまったのだ

から。

「じつは春菜殿には申し訳ないのですが……私も戻り方知らないのです。」

と守護神はいった。

「え？え？なに？それじゃ私ずつともどれないの？」

と春菜は少し早口で怒りをこめていった。

「ちよつとしらべておきますんで……はい。」

と春菜の怒った様子に戸惑いながら守護神は言った。

「早くしてね。と、私はどうすれば……。」

と考えていると、守護神は、

「とりあえず、そのまま生活してください。そうすれば何かあるかもしれない。」

というと春菜は、

「しかたないね。じゃあ学校に行きますか。」

といって準備し始めた。

ものすごく懐かしかった。もう卒業して10年たつのだから……
てきばきと仕度を終えて学校に行った。

いったいこの小学校時代で何をやりなおすのであろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9307a/>

タイムスリップ

2010年10月21日23時07分発行